Niigata University

学　会　記　事

第52回新潟大腸肛門病研究会

日　時　平成15年12月13日（土）
午後3時～5時40分
会　場　新潟グランドホテル
3階　悠久の間

I．一　般　演　題

1　大網内リンパ節経由で胃大網リンパ節転移を来したと考えられた結腸癌の2症例

瀧井　康公・横溝　肇・藪崎　裕
土屋　嘉昭・佐藤　信昭・梨本　篤
田中　乙雄・佐野　宗明
県立がんセンター新潟病院外科

結腸癌のリンパ節転移は結腸管膜の腸管傍リンパ節，中間リンパ節，主リンパ節と順に転移を来たし，それから大動脈周囲リンパ節等から全身のリンパ節へと転移する経路が一般的と考えられている．

今回我々は，大網への直接浸潤と大網内にあるリンパ節転移，胃大弯リンパ節転移を認め大網経由で胃大弯リンパ節へ転移を来したと考えられる2症例を経験したので報告する．

1例目は54歳男性，平成13年8月手術を施行した4型の上行結腸癌症例．術中所見では大網と横行結腸が癒着し浸潤陽性と判断された．大網に白色調の腫瘤を認め胃大弯リンパ節に転移陽性と判断された．右胃大網動静脈根部まで合併切除を行い3群まで郭清した拡大右半結腸切除術を施行した．組織学的診断にてsiの低分化腺癌で腸管膜の2群までと，胃大弯リンパ節への転移を認め大網の腫瘤はリンパ節で転移陽性であった．

2例目は59歳男性，平成15年2月に2型の盲腸癌に対し手術施行．術中所見では大網への直接浸潤と胃大弯リンパ節の転移が疑われた．右胃大網動静脈を根部まで合併切除を行い，3群まで郭清する右半結腸切除術を施行した．術後の組織学的診断にて，siの中分化腺癌で腸管膜内の2群までのリンパ節転移と大網内のリンパ節及び大網内のリンパ節転移が確認された．

これら2例とも現在再発無く経過している．比較的まれなリンパ節転移経路を示した2症例を経験したので報告する．

2　ED投与により小腸膀胱瘻の再発を繰り返したCrohn病の1例

小林　康雄・海部　勉・大竹　雅広
須田　武保・杉谷　想一*
日本歯科大学新潟歯学部外科
同　内科*

【背景】クローン病で腸管膀胱瘻を形成した場合の治療方針については現在様々な見解がある．今回当施設で経験したこの症例を通し，クローン病が腸管膀胱瘻を形成した場合の治療方針につき検討する．

症例は29歳女性．

【経過】腹痛で発症．6年後小腸造影によりクローン病小腸型と診断された．回腸膀胱瘻を合併しており，先ず保存的治療を施行．しかし，膀胱炎を繰り返すため手術を施行した．手術後は再発なく経過良好である．

【まとめ】腸管膀胱瘻の治療に対しては現在のところ見解は統一しておらず，意見が分かれている．今回本症例に対しては先ず保存治療を試みた．しかし膀胱炎が再燃を繰り返しどうしても膀胱瘻を閉鎖に導くことができなかった．本症例を経験した印象として，保存的治療に速やかに反応しない膀胱瘻に対しては外科治療の選択肢も早期より念頭に置くべきではないかと考えられた．

NII-Electronic Library Service